

■自然共生園とは

東北地方のきびしい自然と人とのかかわり合いによって育まれた文化や自然を体験したり、楽しみながら学ぶことができるフィールドです。里の田園風景や、居久根、草原、湿地、牧野などの自然を再生しています。

■見どころ紹介

～里地の自然～

耕作地・水田・居久根

畑では、ソバや麦、青菜や蕪、豆類など東北地方の食文化にちなんだ作物を栽培しています。春は青麦が風にそよぎ、夏はソバの白い花が一面を覆います。秋は柿や栗が実り、懐かしさとぬくもりのあるみちのくらしい里地の風景が楽しめます。

「居久根」とは屋敷林のことで、季節風を防ぐだけでなく、落葉や焚付けを採るための暮らしに欠かせない林でした。山菜や薬草も栽培されました。居久根に植えられた、田打ち桜とよばれるコブシが咲くころになると、その年の農作業が始まります。

～水辺の自然～

湿生花園・ヨシ原・スゲ原・ヤナギ湿地林・小川・池

湿生花園では湿地を再生し、湿地特有の野草をタネから育て増やしています。カキツバタ、ノハナショウブ、チダケサシ、クサレダマ、ヌマトラノオ、ミソハギ、コバギボウシ、サワギキョウ等が咲きます。

ヨシ原やスゲ原、ヤナギ湿地林は、かつての水田の跡地です。初夏のヨシ原ではオオヨシキリが子育てを行います。園内を流れる小川ではアブラハヤやスナヤツメ等の魚類、カワトンボ等の水生動物が生息しています。

～草原の自然～

展望野草園・サクラソウ園・放牧区

茅などの草が暮らしの必需品であった時代には、各地に草原が維持されていました。草が利用されなくなると草原もなくなり、今では草原特有の動植物が絶滅に瀕しています。ここでは、人の手で維持されていた動植物が豊かな草原（半自然草原）の再生を目指し、オキナグサ、サクラソウ、カワラナデシコ、キキョウ、リンドウなど、50種類ほどの野草をタネから育てて増やしています。

野草が彩る広大な草原には、ハナバチやチョウ、ヒバリやキツネ等、草原の生き物も訪れるようになりました。

～樹林の自然～

コナラ林・崖線樹林・ヤナギ林

コナラ林や崖線樹林では、下刈を行って明るい雑木林を再生し、樹林特有の野草を育成しています。春にはルリソウ、クリンソウ、初夏にはニッコウキスゲ、夏にはソバナ、秋にはキバナアキギリ等、四季折々の野草が咲きます。野草の豊かな雑木林の散策が楽しめます。



..... : 春の花野探勝おすすめコース(1,600m)

..... : 山羊ふれあい体験場所へのコース(230m)

▲ : 見所

～展望野草園からの蔵王の眺め～

快晴の日には、展望野草園の頂から屏風岳、熊野岳など蔵王の山々の眺めが楽しめます。

また、東側には、北川を挟んでコナラの雑木林で覆われた里山地区や、こんもりとした釜房山が望めます。里山地区へは、ドックランの近くの「ゆいっこ橋」を渡って歩いて行けます。



～体験施設～

自然共生情報館

自然共生園のことや東北地方の自然共生について、展示や映像などで紹介しています。各種のイベントや、野の花情報、生き物情報なども発信します。手仕事の展示や体験もできます。

知恵体験舎

板の間や縁側で、のんびりと休憩できます。体験イベントでは、農作業体験や、ここで採れた作物を使った食品加工体験など、みちのくの自然との共生が育んだ暮らしの知恵が学べます。

●お問い合わせ先：みちのく公園管理センター

TEL 0224-84-5991 (自然共生園担当)

〒989-1505

宮城県柴田郡川崎町大字小野字二本松 53-9

<http://www.michinoku-park.info/wp/>



今日はここを観てみよう！

■春のお目覚め

ウグイスカグラ（位置A）

早春に咲く低木です。鶯が隠れそうな枝が混み合う姿や、鶯が鳴く頃に咲くことが名の由来のようです。ハスカップの仲間で、甘い赤い実をつけます。



ネコヤナギ（位置C）

硬い帽子が取れはじめ、べんべろっこと呼ばれる白銀色のピロードの花が現れます。花屋でも売られていますが、野生のネコヤナギはあまり見たことがないのでは？



ヤナギの花（位置D）

3月下旬になると、いろいろなヤナギの花が咲き始めます。銀白色の花芽が開花して黄金色の花に変わります。タチヤナギ、オノエヤナギなど、少しずつ異なります。



今日はここを観てみよう！

■春が来た

オキナグサの芽吹き（位置A・G）

3月中旬になると、展望野草園のオキナグサが芽吹き始めます。白銀に綿毛に包まれたオキナグサのつぼみが、キツネ色の枯草の中で、春の訪れを誰かに伝えていきます。



カタクリの芽吹き（位置B）

宮沢賢治の童話「おきなくさ」では、カタクリはオキナグサのお花の友だちです。でも、オキナグサは野の花で、カタクリは森の花。なかなか会える機会はなさそうです。でも、オキナグサが咲き始めると、コナラ林では、カタクリもあわてて芽吹き始めます。きっと花蜂が、野原と森を行き来して、春の訪れをカタクリに伝えている。。

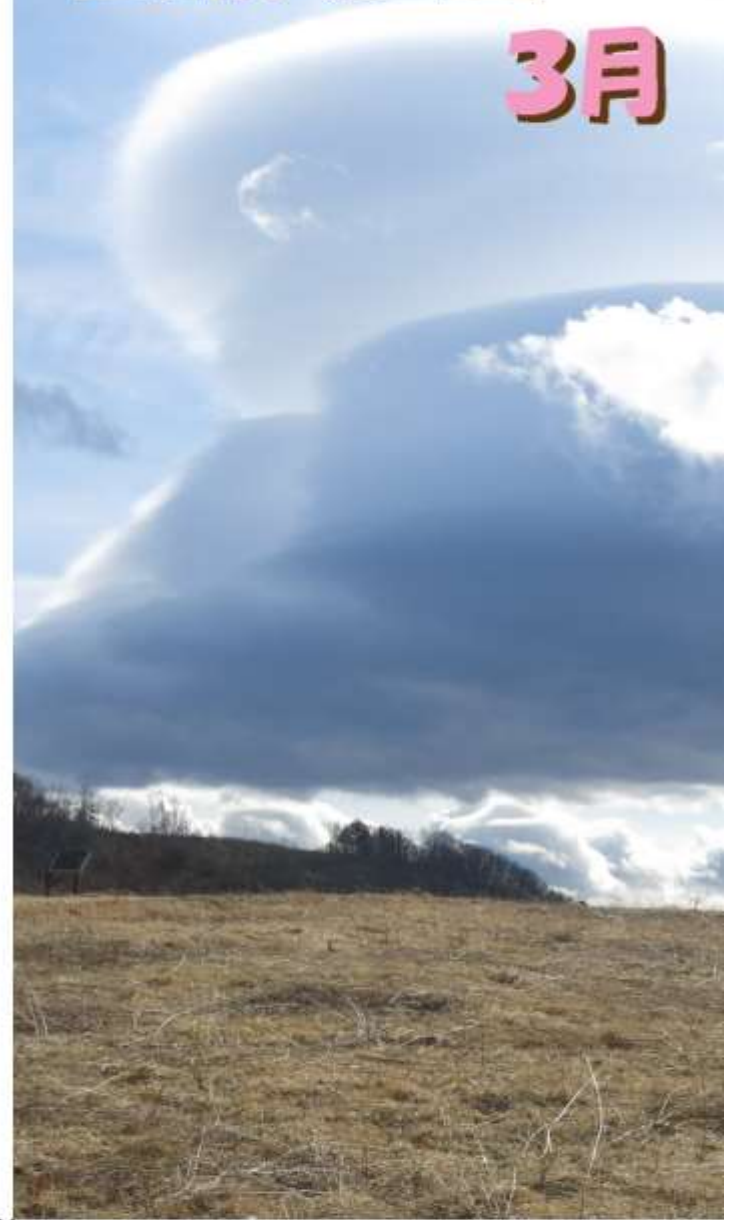


みちのく公園北地区



てくてくマップ 自然共生園

3月



今日はここを観てみよう！

■春のお目覚め

フキノトウ（位置各所）

雌花と雄花のフキノトウがあります。雌花はやや黄色味があり、星型の花弁が混じります。雄花は糸状で白っぽく少し褐色が混じります。雌花ばかりの場所と雄花ばかりの場所があるのは、何故でしょう？地下茎で同じ株が繋がっているためです。雄花はすぐに枯れ、雌花は伸びて実を飛ばします。



雌花



雄花

ニホンアカガエル（位置E）

他のカエルがまだ冬眠しているこの時期にいち早く目覚め産卵します。産卵後はまた冬眠するらしくて、姿が見えなくなります。



今日はここを観てみよう！

■ハシバミの花（F）

ハシバミはカバノキ科の低木でヘーゼルナッツの仲間です。ヘーゼルナッツは、中央アジア原産で、カカオの入手が困難な時代のイタリアで、ヘーゼルナッツのペーストをカカオが少ないチョコレートに加えて、ココを出したそうです。

垂れ下がっているのは雄花、そして、雌花は紅色で2ミリほどの糸のよう。。



雄花



雌花

ハンノキ（位置H）

ハシバミと同じ仲間、こちらは高木です。やや赤い雄花をさげます。小さな松ぼっくりのような去年の実が残っています。



今日はここを観てみよう！

■「草泊り」（位置 情報館・F）

かつて、家畜の飼料や堆肥、屋根材等として、草が暮らしに欠かせなかった時代は、お盆を過ぎると、茅場に草刈に出かけました。集落から離れた遠い茅場に行くときは、「草泊り」という草刈小屋をつくり、泊りがけで草刈を行いました。昭和30年代の岩木山山麓の茅場が舞台の映画「草を刈る娘」にも「草泊り」が出てきます。このような草原は、草の利用が無くなると、草原は植林地や外来種の牧草地に変わったり、開発などでなくなってしまいました。そのため、草原の動植物の多くが、絶滅危惧種になっています。自然共生園では、草刈や放牧で維持された、昔の草原の復活に取り組んでいます。その草原で、カヤネズミの巣が見つかりました。日本では最北限に近いカヤネズミの営巣地です。



草泊り



カヤネズミの巣